

8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。お疲れさまでございます。議長の登壇の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

まず、一般質問の前にですけれども、先刻の心痛める痛ましい事件について、本当に一言お悔やみを申し上げます。地域の子供たちはもちろんのことですけれども、犠牲になられたお二人の子供さんたちが一日も早く心の傷が治られて、元気に立ち直られることを祈っております。そして、私たちも安心・安全な地域であるように心を込めて努めてまいりたいと思っております。

一般質問に入らせていただきます。

まず、各町の行事の開催の徹底について質問いたします。

合併して2年目に入りました。本当に忙しい、市長とともに忙しい行事、祭り、イベントと盛りだくさんの中で、市民からもいろんな声が届いております。「どうしてこんなに、あっちにも行きたいのに、この行事にも行かんといかんのに、これにも行きたかると、何で行かれんとね。何でこがんだブっとね」と私に聞かれます。でも、私が見るところではありませんと言ったらいけませんけれども、わからないところがあります。何でねと聞いてみると、やっぱり合併したらあっちの祭りにも行ってみたい。こっこのイベントにも行ってみたい。そして、一武雄市民となったということを実感したいという人が多くいらっしゃるようです。

お尋ねなんですけれども、どうしてこういうことになるのか。ほんの1つの例ですけど、せんだっての物産まつりのときにもでした。北方であったので、私たちも張り切っておりました。そしたら、1日目は物産まつりと、あっ、1回目だから何があるのかなと皆さん行くと思う。そしたら、子供たちの行事が武雄でもあっておりましたし、2日目は大事な北方町の少年の主張大会をしておりました。そしたら、そのお母さんが、「うちの子はこっちに出る。こっちを見たか。でもおしくらまんじゅう、そっちも行きたか。もう何ね、こりゃ」と本当に言われた。そのときに、私は旧町、北方町のときには、祭りやイベントは、こういうものだと思って、何とも考えずに一般参加をしておりましたけれども、今度それを聞いて、ああ、ほんなごとね、どうしてこんなになったのかな。9町が一緒になったということもあるだろうけど、何とか解決策はないのかなということで、そんならちょっと聞いてみようねということできょうは質問しております。

お尋ねですけれども、こういうふうな意見が市役所のほうには届いているかどうかですね、お尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほどの御意見は、多々届いております。届いておって、私の基本的な認識は、これはあ

る意味うれしい悲鳴だというふうに思っています。と申しますのも、きょうのNHKの朝のニュースで、たしか7時50分過ぎだったと思いますけれども、限界集落のところで、もう祭りが1個消えてなくなると、400年ぐらい続いた。そういったことで、これをどうしようかというニュースがあったときに、先ほどの行事がいっぱいあって困るといったことについては、これはある意味困った問題ですけど、深刻な問題ではないというふうに思っております。

その上で、今回例えば、トムソーヤと物産まつりが重なったといったことについては、これはある意味行政の縦割りの悪いところが出たと。要するに、横のつながりができていなかったということで思っておりますので、これは基本的に、年間計画を立てるなり、行事の調整をするなり、これはちょっともう少し高いレベルで調整をする必要があるだろうというふうに思っております。この祭りが、あるいはイベントがいろんなところであること自体は、非常にこれは、この御時世ではそれはいいことだと、これは議員と認識は一緒だと思いますけれども、ただし、それが乱立すると、同じ日にあるということ自体については、改善しなければいけないというふうには思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

そう言われると、本当にそのとおりで言うことはありませんけれども、今まで、やっぱりこんなふうにダブってきたということは、市役所のシステム自体が私はわかりませんので、どういうふうにして決めていかれたのか、どういうふうな会議なんかをなされながら、こういう調整をされたのかをお聞きしたいと思いますけど。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

お答えをしていきたいと思えます。

行事の開催日程等につきましては、市役所の中の行政会議ということで部長会がありますけれども、部長会等で報告をして協議をしながら決定をしていったところでございますけれども、先ほど市長が答弁をいたしましたように、ある程度行事の決定については各部でお任せというふうなことになりますけれども、その調整がうまくいっていなかったことは事実でございますけれども、部長会の中で、各部からの報告を受けて調整を行ってきたというところでございます。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

部長会という会議の中でも、それは大変なことだとは思いますが、本当にスムーズ

にいてこそ合併したかいもあるし、本当によかったなと思うんですけど、その部長会自体が余りにも忙しくて、機能を果たしていなかったなと思うんですけども、本当に先ほど市長が申しましたように、にぎやかでいいのはいいのです。宮崎に次ぐ佐賀と、本当に皆さん注目のところだとは思いますが、市民がやっぱり満足して、ああ、よかったと言ってこそ本当に称賛、絶賛されることでありまして、本当ここをいま一度していかなくてはならないと思います。

それで、今からもまた、それぞれこの忙しさというのは変わらないと思いますけれども、部長会においてでもですけども、私がお願いしたいのは、それぞれの祭り、イベントはもちろんのこと、せんだっていろいろな出ておりました。T A I Z O展についてもいろんな行事についても出ておりましたけれども、それぞれの現場に、この行事をいつするがどうかという打ち合わせですか、会議ですか、それをされてから決めておられるものやら、トップダウンとしてぱっとこう決めておられるのか。そこら辺をちょっとお聞きしたいなと思いたが。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に市が関与するものについても、実行委員会形式で、例えば、物産まつりであるとか、T A I Z O展もそうですけれども、実行委員会形式でやっている部分があって、市役所がこれをやるとかという形のものというのは、私が知る限りほとんどないと、それと地域の行事、あるいは教育委員会の主催等々があって、いろんな行事があるわけですね。それは地域が主体になっている行事もある。そののやっぱり進度管理はきちんとやらなければいけない。ただ、それは、お祭りとかイベントの特性に応じて、いろんな、例えば、本当に現場レベルでやろうというのもあっていいし、例えば、物産まつりとかT A I Z O展というのは、一定の全体としてこうやろうといったこともありますので、それは個々のお祭り、個々のイベントに応じて決める話である。一番問題なのが、その情報の共有が事前にできていないのかなというのは、私自身も反省をしております。私が知らないところでも、あっ、この祭りとこの祭りがダブったとかいうのがありますので、私ももう2年目になってきましたので、そこは十分進度管理についてはきちんと見守っていきたいというふうにも思っておりますし、そんな感じでございます。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に難しいことだと思います。9町もあって祭り、イベントたくさんありますし、それは地域のお祭り、イベントについては、それはもう100年来から、200年来から続いている行

事というものがあって、日程の調整というのはできないかもわかりませんが、市内での、庁内で決める行事については、いろんな日程調整ができるんじゃないかなとは思っております。

それは、本当に1つの例ですけれども、T A I Z O展がずっと出ておりますけれども、私が今申しましたのは、学校の現場と、本当1つの例ですけれども、学校の現場とかなんとかの意見を聞いたり、本当それがなかったんじゃないかなというふうな意見をたくさん、文句と言うたらいかん、不満が私のところに届いているんです。（「そうそう」と呼ぶ者あり）こがんで回っていくもんかいて、見せたい、見せなくてはいけなくて。写真展も、泰造さんのこのすばらしいあれを見せんといかんで、それは思っているんですよ。でも、現場には現場の流れがあって、行事があって、びっしり詰まっていると。そこにそれがぱっと飛び込んでくるというのは、本当に困ると。だから、もっと話し合いをされるとかですね。昨日も6月時点で話し合いが出て、こうというのがありましたけれども、私のところに、本当に現場の人たちからの意見しか届きませんけれども、そんなふうにもっと意見を聞いてもらいたい。（「そうそう」と呼ぶ者あり）そしたら、うまいとこいくのができやしないかというのがあったんです。

それで、私は本当に、心からこれだけのことをみんなに知ってもらいたい、見てもらいたい、参加してもらいたいと思っております。だから、本当にそこら辺をどうすればうまくいくのかなと思っておりますけれども、市役所の中では、本当に忙しいと思います。何かいい案がないものかですね。皆さんが一目でぱっと見て、ああ、ここでこれがある。ああ、これとこれはダブらさねばいとか、それぞれの課の横のつながり、縦のつながり、それがうまくいけば、ああ、みんながすんなりと、あっ、じゃあ私はこれ行こうとできるんじゃないかなと思っておりますけれども、これから先は、じゃあ話し合いをしますって、どういうふうに企画のほうを部長とか、私が通告したときにお考えになったとは思いますが、今から部長会でいろいろ出して話していきますじゃなくて、今までじゃなくて、こんなところをこんなふうにしたいというのがありましたらお聞かせください。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

これは根本的な解決というのは無理だと思います。と申しますのも、別にこれは否定的なことを申し上げているわけではなくって、要は、例えば、文化会館の大ホールとかほとんど詰まっておわけですね。それでもやっぱりやりたいとか、時間をずらしてでもやりたいというのは、やっぱり根本的に、1市2町が合併をしたということで、ありていに言えば行事が3倍にふえておるわけですね。それともう1つが、やっぱり先ほど申したとおり、いろんなことをやりたいという声があるわけですね。それを根本的に調整するというのは、ちょっと

やっぱり事実上不可能だというふうに思っております。この町に、例えば、祭りが3つしかないということであれば、それは調整はできます。しかし、以前牟田議員からありました。やっぱり行事が多かろうと、その今調査も進めています。それはまだ結果は出てはおりませんけれども、そういったことを見るにつけても、武雄にはやっぱり活気があるというふうに、私は肯定的に思っておりますので、それで、先ほど申し上げたとおり、やっぱり情報の共有が必要だろうと、事前に一日でも早く。これについては改善の余地はあろうと思います。例えば、部長会でしたりとか、あるいは市報のところに幾ばくか流したりとかというのはできると思います。しかし、根本的にこうしたらこうなるというのは、私は解決は、それは無理だというふうに思っております。

それと、先ほどありましたように、情報の共有ということで、学校現場に押しつけというか、知らなかったということについては、T A I Z O + T A K E O展に限って言うと、6月に実行委員会が立ち上がって、そこで11月の話ですので、そういった御意見というのは真摯に受けとめたいというふうに思っておりますので、もう少し早目に、事前にお話しできる部分はきちんと、それはお話しをしようというふうに考えてはおります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

そうですね、本当にそういう気持ちで、気持ちだけではなかなか進まないところもあるかと思えますけれども、行事があって、あっちに行きたい、こっちに行きたいと、本当に活気があっていいことだと私は思っております。だから、一人でも多くの方が参加できるような方法をとっております。本当に大変だとは思いますが、今後、こういうふうな不満は出ると思えます。今市長がおっしゃったように、みんながすらすらと一律に日程調整ができると私も思ってはおりません。それをまた望んでもおりません。ただし、本当1つの例でございまして、少年の主張大会とか、町民にとって本当に大事な大会なのに、みんなに聞いてほしいのに、同じ子供の大会が行われるとか、それは本当私残念でした。だから、今後、次年度はこういうことが少しでも解消されますように、市民の目線に立って、そして、温かい行事について決めていただきたいと思っております。本当に活発に動いていることは認めます。そして、うれしいことだとは思っております。みんなが参加できるように、不満の解消をお願いしたいと思います。

続いて、次の質問に移ります。

北方幼稚園の健全な運営について質問をいたします。

今、北方の幼稚園は、市内でただ一つの公立の幼稚園でございます。定員120名に対して現在42名です。本当にもう見られた方は御存じかとも思いますが、運動場もあるし、小学校並みのプールもありますし、園舎も明るくて広くて、とってもしばらしい立地条件の

中に建っております。子供たちも伸び伸びと本当にいい幼稚園です。なぜ42人なのかな、これでいいのかな、健全運営なのかな、どういうふうにお考えなのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

議員今おっしゃったように、北方幼稚園は唯一の公立幼稚園であります。現在の定数120名に対しまして、42名、来年度、平成20年度でございますけれども、現在29名の予定ということで、大変厳しい、園児の数にしましては厳しい状況になっております。これは、1つには全国的なものでありますけれども、少子化の問題、子供が少ないというのが一番大きな原因じゃないかというふうに思います。それともう1つは、北方幼稚園につきましては、年齢制限、それと通園の区域の制限をいたしておりますので、この辺が原因じゃないかというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

原因については、考えは一緒だと思っております。このままで行かれるつもりなのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、健全経営でございますけれども、これにつきましては、園児の数をふやすというのが一つの健全経営の方向じゃないかと思っております。

ただ、園児の獲得につきましては、方法といたしまして、さっき申しました原因の年齢制限の拡大ですね。今4歳と5歳が入っておりますけれども、3歳まで上げるとか、そういう問題。それから、通園区域につきましては、北方町の在住の園児が入れるようになっております。これをどこまでか広げるという問題、こういうものがございますけれども、募集年齢の拡大とか通園区域の拡大、こういうのをやった場合に、周辺の幼稚園、それから保育園、ここに大きな影響、少子化ということがありますので、影響が予想されるわけでございます。そういうことから、周辺幼稚園、保育園、それからまた地元関係者、保護者の方々と十分意見を交わして、意見を聞きながら、慎重に検討をしていきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

合併してもう2年目になります。それで、私ことしは何か少し改善策があって募集をされているのかなと思っておりましてけれども、やはりことしも北方在住に限るという、別に募集がございました。市報のですね。ほかはこういうふうにして、（資料を示す）幼稚園のチラシが全戸に配布されております。同じ公立の幼稚園なのに、2年目なのに、今おっしゃったように、保護者とかいろんな話し合いをされたならば、私のところに届いた声も必ず上がっているんじゃないかと思っております。私のところにも北方町外からなぜ入れないんですかと意見が届いております。それから、公立のこの幼稚園に見学に来られた方もおります。だから、合併してから、今までにそういう話し合いをされたのかどうか。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

北方幼稚園の健全経営につきましては、庁舎内では話をいたしておりますけれども、さっき申しました地元といいますか、周辺の幼稚園、保育園、関係者、こういうところとはまだ話をいたしておりません。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは、このまま行かれるつもりなのか。私は本当に、ことしは年齢の枠を広げるというのはあるんじゃないかなと。在住というのもないんじゃないかなと思っておりまして。

それで、私北方の時代から、3歳児からの入園をというのを行政のほうにも届けておりました。でも、それは実現できませんでした。今度合併して、こんなにすばらしい公立の幼稚園があるのに、なぜ3歳児からできないのか。現場の声もお聞きになったことはあるのかなと。今聞いたら、親さんとあれがなかったと聞きましたのでわかりましたけれども、なぜ4歳からしなければならないか。私は不思議だなと思っておりまして。でも、全国で4歳だけの幼稚園とか、5歳だけの幼稚園、そんな例もあります。でも、一般的に教育者としては、3歳からの保育園児というのを希望しております。なぜか。4歳、5歳を入園させたときに、4歳児が家庭から入ってきたときに、3歳児に教育をしなければならないことを4歳児に初めのうちはしなくてはならないのです。そして、4歳の半分ぐらいから5歳と行って学校に行くんです。それは、実際その現場に当たられた先生方にお聞きになるとよくわかると思いますけれども。そして、4歳、5歳というのは、ある程度のところになったら双子みたいな感じなんですね。5歳児が年長者として、これから行く小学校に入学する際、年長者としての精神的な発達とか物事の発達というのはなかなかできません。3歳児があることによっ

て、5歳児も心身ともに発達をしますし、4歳児もまた発達をしていく。だから3、4、5という年代は絶対一緒にするべきだと思っておりますし、現場の先生方もそのようにおっしゃっています。だから、そこら辺を考えますときに、何で早く、これはもういち早く話をされたら3歳になるのになと思っております。

それから、北方在住についてですけれども、せっかく合併したのに、武雄一円になったのに、なぜ北方だけに絞るのか、不公平じゃないかなと思っております。

それから、先ほど部長のほうより、ほかの幼稚園とのいろんな関係があるということもお聞きしました。今ここに15あります。この人数とかなんとかも調べて、北方の幼稚園に、今42です。それに、ここから2人ずつ来られてもいっぱいになるんです。2人ずつ減ってここが立っていかないのか、そんなことは絶対ないと思います。また、幼稚園は幼稚園としての目的もありますし、幼稚園に預かる時間、そんなのも考えたら、働いている今の御時世ですので、たくさんのお母さん方は就労していらっしゃいます。就労しているお母さん方は、幼稚園には時間が2時とかだから預けられない。だから、そういう方はどんなに広げても預けには来られません。いろいろ考えて、子供とは小さいときは一緒におったほうがいいと考える。そして、それを許される家庭、行かれる家庭のみが、そこに入園をさせていらっしゃると思うんです。ですから、そんなによその幼稚園、保育園に私は影響を与えないんじゃないかなと思っております。ここにあるたくさんのお母さんの幼稚園も武雄市の皆さんのものです。公立幼稚園ももちろん武雄のものであります。そういうところをいかがお考えでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

物事の成り立ちというのは、基本的に経緯経過があると思います。基本的に、これだけのことを主張されたのは、この質問を通じて上野議員の指摘が初めてであります。もちろん子ども部から届いておりますけれども、これだけまとまった指摘というのは初めてでございますので、旧北方町でなぜ4歳児からスタートをしたのか、そういった経緯経過。それと、先ほどありましたように、既存の保育所、幼稚園に与える影響ということ、ちょっと我々のほうで時間をいただいて、検討をさせていただければと、時間をちょっといただければというふうに思うわけですね。これは一刀両断に、いや、もうこれからは始めますとかという問題で私はないというふうに、議員の質問を承りながら思いましたので、いましばらくちょっと時間をいただければありがたいというふうに思っております。

そういったことで、総合勘案をしてできるかできないかをちょっと考えてみたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

それぞれ経営とか運営とかいっぱいあるので、いろんなもろもろの条件があるかもわかりません。でも私は、本当に心から子供たちにすばらしい幼稚園教育を受けてもらいたいという願いがありますから、ましてや、あそこを生かして本当に市内一円の子供たちに広く門戸を広げていきたいと思っております。それにはやっぱり条例改正ということが伴ってくるんじゃないかと思いますが、今市長のお考えでは、いろいろ考えた末にする　　するとは言いません。さんざんやっただすけれども、希望があるということですので、楽しみにしておりますけれども、本当にこれは、いろんなことを考えればできないんじゃないかなと思うけど、本当に少子化で大事な子供たちを立派に教育していくためにはどっちがいいのか。せんだって民営化のときに、保育園のときには市長が、どっちが子供にとっていいのかというのをおっしゃいましたよね。だから私も、そこを重点にして考えていただければ条例改正もやむを得ないんじゃないかなと思っております。

それから、これ本当のところをお聞きしたいんですけど、このまま何もせずに、次年度もまたこのままの状況、それは、もう市長が急いでお話をされて、次年度に向けてされたら別ですけれども、どういうふうにお考えであったものか、このままずっと行くつもりだったのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

北方幼稚園につきましては、平成18年ですかね、今回の武雄市行政改革プランの中で、民営化の推進という方向で計画を打ち出しております。今後は、その民間移管につきましても検討をしていきたいということで考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

民営化ということですね、年次計画の中にとということですが、このまま民営化の一本道をたどるといのは、私は反対です。やっぱり努力すべきところは努力すべきじゃないでしょうか。私だけじゃなくて、現場でもこういう改善をしたらどうかという意見が出ています。それをしてみて、どうしようもないときはないときがあるかもしれません。でも私は、民営化の予定だから、このまま行くといのは反対です。そこをどういうふうにお思いでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

基本的に民営化というのは手段でありますので、先ほど上野議員もいみじくもおっしゃったように、子供たちにとってどっちがよかろうかといったことで、その民営化が先はずどんと出てくるというのは、私はちょっとどうかなのというふうに思うわけでございますね。

それで、私が思うのは、ここで本当に難しいのは、私は以前、大阪の高槻におったときに、公私協という幼稚園の、公と私立の協議会の会長やったわけですね、させられたわけです。そのときに甚だ難しかったのが、そこでの議論は、民間が創意工夫に基づいているんな保育の教育をしていく、メニューをしていくということで、じゃあ、公のところが果たす役割は何だろうかといったことなんですね。そのときも議論が相当出ましたけれども、自分たちがいろいろしよおとけ、公はもう口出すなとかという議論が大勢やったわけですね。それで、私はその役割分担というのを、やっぱりきちんと明確にこれはすべきだと思います。民間の幼稚園、保育園というのはこういったことをすべきだと。公のところは、そこが足りんけんこれだけのことばすると。それをちゃんと仕切り分けをした上で、民営化がいいのか、あるいはこのまま保持したほうがいいのか、そういう議案が、私は冷静な議論が求められているというふうに思いますので、まずそれを、先ほどちょっと答弁で言葉足らずだったんですが、申しわけございません。緊張しておりますので言葉足らずだったんですけれども、そういったことも含めてちょっと検討をさせていただきたいと。先ほど答弁ですればよかったんですけれども、そういうふうに考えてはおります。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

今、部長と市長の意見がちょっとあれだったかわかりませんが、市長の意見を聞いて安心いたしました。民営化いつじゃなくて、じゃあ、そこに今私が言ったような現場の意見、もろもろの意見を工夫されて次年度からは一応されるということで、このままいったら、もう衰退の一途、人数は絶対ふえません。ちゃんと平成23年度までに何人というか、大体人数は出ているんですよ、北方在住というのはですね。だからもう人数はふえることはありません。それでは市民も納得をしませんので、今市長が言ったような考えで努力をし、門戸を広げてやってみて、そして今おっしゃった公立の役目、民間の役目、あると思います。それを話し合い、現場の先生方ともよく話し合いをされて、そして進んでいってもらいたいと思っております。

今ここで私が、ああ、そうですか、そいぎそがんでくださいではどうしようもないので、だから、本当に市長が民営化にただ単純に走るだけじゃないと言われたことをお聞きして、私はそれはもう安心いたしました。では次年度からは、どうぞこの条例を改正して門戸を広げる。3歳児まで広げる。何とかして人数をふやす努力というものはされるんですね。お尋

ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

強い意志の力を感じました。ただ、やっぱり、これは先ほど申し上げたとおり、1つだけで解決できる問題ではないんですね。だから今まで歴史というか、時間をかけて今ここに至っているっていうふうに思うわけですね。だから、先ほど御答弁したとおり、経緯とか経過を踏まえた上で、もちろん現場の皆さんたちの意見はきちんと聞いてまいりたいと思っております。要は、オール武雄で、どういう保育が望ましいのかといったことがやっぱり起点になると思いますので、そういった観点で時間をちょっといただければと。門戸開放をすることによって、武雄全体の保育の質が低下したというふうにならないようにしなきゃいけない。だから出発点がまずそこにありますので、そういった意味を込めて、ちょっと時間をいただければというふうに答弁をさせていただいたところでありますので、現段階で門戸を広げる、あるいはそのままにするといったことについては、まだ考えを持ち合わせておりません。慎重にやっぱりそれはじっくり考えるべき問題だというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

8番（上野淑子君）〔登壇〕

もう合併して2年になりますので、慎重に考えられたことだと思って私も質問をいたしたんですけども、本当に考えてほしいと思います。住民の皆さんの、市民の皆さんの負託にこたえてほしいと思っております。

だから、皆さんも御存じですけど、公立と民とどがん違うかとか思われると思いますけれども、みんな民ばかりあったときに、何が基準なのか、どこが基準なのか、それがあるんですね。公立があるということは、ある一定の基準、それを公立はきちっと守っていているということもありますし、それから、センター的な役目というのも果たしているのです。たくさん民がある中ですね。ですから、公立は必ず各町には1個は絶対なからんばいかんと私は思っております。公平な教育をするためにですね。それからまた、義務教育へスムーズに移行していくためにも、公立の幼稚園というのはぜひなくてはならないものだと思っております。

また、今私が要望しました門戸を広げる、3歳まですると、それはもうぜひ必要です。それと同時に、幼稚園の中の運営についても、やっぱり工夫改善していくべきところもあるんじゃないかと思っております。それはまた現場で話し合いをしたいと思っております。

はっきりした答えを聞かれませんでしたけれども、はっきり民営化するという答えも聞いておりませんので、私は、皆さんにお答えするために、また再度この質問をしたいと思っ

おりますので、どうぞ熟慮されて、次年度はよい返事が、子供たちのために頑張してほしい  
と思います。

以上、終わります。